

一般演題（口頭） | ワクチン臨床

■ 2025年9月27日(土) 10:55 ~ 11:45 ■ 第4会場(2F 小ホール)

一般演題3 「新型コロナワクチン臨床」

座長: 水上 拓郎 (国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 次世代生物学的製剤研究センター)
平川 賢史 (札幌医科大学 小児科学講座)

11:25 ~ 11:35

[O3-04] SARS-COV2mRNA脂質ナノ粒子製剤接種後症候群（PVS）の実態と臨床的特徴

～全国14施設レジストリによる多症状・長期化の検討～

*藤沢 明德¹、児玉 慎一郎²、小西 菜普子³、上田 潤⁴、中谷 英仁⁵、福島 雅典⁶ (1. 医療法人社団心ほんべつ循環器内科クリニック、2. 医療法人それいゆ会 こだま病院・児玉診療所、3. ヴィオラクリニック、4. 旭川医科大学 先端医科学講座、5. 名古屋市立大学大学院 医学研究科 医療統計学・データサイエンス分野、6. 一般財団法人LHS研究所)

【目的】

SARS-COV2mRNA脂質ナノ粒子製剤（以下、mRNA-LNPと略）接種後に遷延する多様な症状（PVS）を呈する症例について、全国多施設による患者レジストリを用いて症状プロファイル、発症時期、重症度、回復状況を明らかにし、診断・治療戦略への示唆を得ることを目的とした。

【方法】

2020年12月～2023年8月末に、mRNA-LNP接種後の遷延性副反応であることが「臨床的に確実」と診断された179例を対象に、前向き観察レジストリ研究を実施。症状はMedDRAのSOC/PT分類に基づき分類し、有害事象の頻度、重症度（CTCAE準拠）、発症日・回復日などを記録、解析した。

【結果】

有害事象は計493件。69.4%が接種後90日以内に発症、12.4%は360日以上経過後に発症。頻度の高い分類は「一般・全身障害」（29.2%）、「神経系障害」（22.3%）、「筋骨格系障害」（10.1%）であり、倦怠感、ブレインフォグ、関節痛、歩行障害、感覚鈍麻などが多く記録された。最大で29のSOC系統を呈した例も認められた。完全回復は27%、寛解38%、未回復29%、死亡1%。3 SOC系統すべてに該当するPVSタイプ1では未回復率が63%と最も高かった。回復までの中央値は150～300日と長期化傾向を示した。

【考察】

本研究は、mRNA-LNP接種後におけるPVSの臨床的多様性と遷延性の実態が明らかになった。特に神経系・筋骨格系を含む複合症例において長期にわたる未回復が顕著であった。また一部症例はME/CFSとの診断的オーバーラップも示唆された。

【結論】

mRNA-LNP接種後のPVSは、全身に多彩かつ持続性のある症状を呈し、長期的視点での診療体制の整備と診断基準の確立が急務である。社会的認知と医療支援体制の強化が求められる。